

第12期 第1回 豊中市廃棄物減量等推進審議会 議事録

【日時】令和2年(2020年)9月8日(火)10時00分から11時30分まで

【場所】豊中市役所 第二庁舎 3階会議室

【出席委員】渡邊委員 花嶋委員 小島委員 國分委員 西村委員 日名委員 下村委員
高島委員 中澤委員 吉田委員 遠藤委員 米田委員 澤村委員 重長委員
(15名中14名出席：有効に成立) ____は、WEB参加

【傍聴者】0名

【事務局】糸井、甫立、道端、吉村、溝口、中川、澤田、永富、渡邊、内田、鈴木、大道、池田、中村、藤田

【オブザーバー】飯野(豊中市伊丹市クリーンランド)

【配付資料】

- ・第12期第1回豊中市廃棄物減量等推進審議会タイムテーブル
- ・第12期第1回豊中市廃棄物減量等推進審議会(WEB会議)議事次第
- ・第12期豊中市廃棄物減量等推進審議会委員名簿
- ・一般廃棄物の減量の促進及び適正処理に関する事項等について(諮問)
- ・第12期豊中市廃棄物減量等推進審議会の審議日程(案)について
- ・「第4次豊中市ごみ減量計画」の進行管理について (資料1-1)
- ・令和元年度(2019年度)事業等報告書速報版資料 (資料1-2)
- ・廃棄物の処理及び清掃に関する法律(抜粋)等 (参考資料1)
- ・廃棄物減量等推進審議会規則 (参考資料2)
- ・豊中市廃棄物減量等推進審議会の会議傍聴要領 (参考資料3)
- ・豊中市廃棄物減量等推進審議会WEB会議実施要領
- ・豊中市廃棄物減量等推進審議会WEB開催マニュアル
- ・WEB会議用挙手用紙等
- ・第12期豊中市廃棄物減量等推進審議会における会長の選任について

当日差替え資料：参考資料2 廃棄物減量等推進審議会規則

参考資料3 豊中市廃棄物減量等推進審議会の会議傍聴要領

1. 開会宣言

2. 部長あいさつ

3. 出欠確認

本日の会議は公開とする。傍聴希望者は0名である。委員15名の内、14名が出席のため過半数に達しており、審議会規定第6条により本日の会議は有効に成立している。

4. 会長選任

事前の互選により、渡邊委員が会長に選任。

5. 委員紹介

「資料 第12期豊中市廃棄物減量等推進審議会委員名簿に」沿って自己紹介。

6. 会長あいさつ

7. 副会長の指名

副会長については、渡邊会長の指名により花嶋委員に決定。

8. 諮問

意見を求める内容

「第4次豊中市ごみ減量計画の進行管理について」

・令和元年度（2019年度）事業等報告書について

9. 第12期廃棄物減量等推進審議会の審議日程（案）について

○事務局

「資料 第12期豊中市廃棄物減量等推進審議会の審議日程（案）について」に沿って説明。

10. 会議録署名委員の指名

議事録署名委員については、國分委員と重長委員に担当していただく。よろしく願います。

11. 審議

案件1. 第4次豊中市ごみ減量計画の進行管理について

○会長

それでは審議案件に入る。案件1「第4次豊中市ごみ減量計画の進行管理について」事務局から説明をお願いします。

○事務局

「資料1-1、1-2」に沿って説明。

○会長

この速報版について、いつ発行するのか。

○事務局

本日の審議会における審議会委員の意見を反映させ、9月中に発行したいと考えている。

○会長

事務局からの説明について、ご質問・ご意見等があればお願いします。

○委員

事業系ごみの削減について、2点質問がある。

新型コロナウイルスの影響により事業活動が縮小して、飲食店からの生ごみの排出量が減っていると考えられる。このことについてどのように考えているのか。

事業系ごみの量を減らしていく計画と思われるが、取組みを促進する事業者を年度ごとに変えていけばごみは削減されるが、同じ事業者なら削減効果は限られていると思う。このことについて、どのような取組みをしているのか。

○事務局

令和元年度の事業系ごみ量について、新型コロナウイルスの影響はないと思われる。今年度の4月から6月のごみの量は、新型コロナウイルスの影響により例年の約80%に減少している。

事業者の取組みや削減効果について、各事業者においてごみの削減対策は講じられているが、その積み重ねによりごみの量が減少していくものではない。また、月3トン以上の事業所を多量排出事業所と定め、随時立ち入りをしながら、ごみの減量についての指導を行っている。

○委員

多量排出事業所については、立ち入りなどの指導によりごみの排出量は減少すると思われるが、それ以外の事業所にはどのような指導を行っているのか。

○事務局

本市では、環境配慮活動に取り組む事業者を豊中エコショップとして認定し、その取組みやお店の情報を広くPRする豊中エコショップ制度を設けている。ごみの減量意識の高揚を図るため、豊中エコショップに新たに加盟していただくよう働きかけを行っている。

○委員

ハッピーごみ減量プランを拝見し、わかりやすいと感じた。焼却処理量を8%削減する減量プランであることから、減量目標に対する達成状況の記載について、達成までの表記をトン数ではなく、パーセントで表記した方がよりわかりやすいのではないかと。

○事務局

減量目標に対するパーセントの割合については、折れ線グラフで記載しており、右上のリサビットの記載については、目標達成までのトン数を記載している。

○委員

6ページについて、家庭系ごみの中に厨芥類・紙類の割合が多いとあるが、市民は資源物の排出を回収日まで待てないので、可燃ごみとして排出しているところがある。例えば、買取りではないが、市内にあるホームセンターでは、段ボール、新聞紙、雑がみなどを回収している店舗がある。店名を記載できないかもしれないが、民間事業所において段ボールや雑がみを回収しているお店があるということに記載すれば、市民は検索すると思われる。

また、広報とよなかに「古着・布などの排出は控えてください」という記事があった。私の自治会の方は「待てと言われてもどうするのだ」と話されていた。市内にあるリサイクル回収業者では、身分証明書は必要だが、豊中市指定の45ℓごみ袋に満杯で持っていくと、100円で買い取ってくれる。回収業者に伺ったところ、ウエスの処理業者と提携しているので、ウエスとして処理しているとのことである。

このような民間事業所の回収を活用すれば、ごみの減量につながると思う。

○事務局

豊中市では、再生資源買取市を実施している。毎週土曜日に名神口にある株式会社新明和において、また、第4土曜日は環境事業所において実施している。買取できるのは、紙類になる。

布類について、現在排出を控えていただいているが、業者に伺うとリサイクルの目途が立ってきたことから、布類の回収は10月から再開する。

○委員

市から説明があったが、まもなく回収を中止していた布類の集団回収を再開させていただく。市内ホームセンター等には、紙類をいつでも持って行けるという利点はあるが、市の集団回収では、全ての回収品目において1kg5円の報奨金が交付されるので、ぜひご利用いただきたい。

○委員

バケツなどの製品プラスチックは可燃ごみで排出することになっているが、国において、プラスチック製品を燃やすのではなく再生するという動きがある。このことについて、豊中市はどのように考えているのか。

○事務局

一部報道において、すべてのプラスチック類をリサイクルに回すという旨の報道があった。そのことについて、国の方から明確な指針が出ていないので、現段階において、新たなプラスチック類の回収方法等については検討していない。

○会長

6ページのごみの焼却処理量の要因分析について、平成30年度は地震や台風による災害廃棄物の影響によりごみの排出量が多かったことから、大きな災害がなかった令和元年度は、平成30年度に比べごみの排出量が減少していることを要因として記載したほうが良いと思う。

家庭系ごみ1人1日当たり量の要因分析について、新型コロナウイルスの影響によるものと記載しているが、新型コロナウイルスの影響により、ごみの排出量に大きな影響が出たのは令和2年3月だけであり、2月までは何の影響もなかったと思われる。このことから、要因分析を新型コロナウイルスの影響によるものとしないう方が良いと思う。

8ページの円グラフの右側の写真について、家庭系ごみ排出実態調査から出てきた手をつけられていない食品だと思われるが、記載がないとフードドライブの提供食品と間違えられるので、写真に説明文を記載した方が良いと思う。

○委員

他の委員から説明があったように、市の回収日を待ちきれず可燃ごみとして排出することが多いと思われる。それをどのように処理をすれば良いかや持って行く場所などの情報があれば、ごみの減量や分別が進むと思われる。市民がどれくらい広報誌を読んでいるかわからないが、情報提供は必要だと思う。

個人的な意見として、学校を活用した情報発信を行えば、子どもたちへの教育にもなるし、子どもから大人に伝わると思う。

○事務局

小学生等への周知については、今年度は新型コロナウイルスの影響で実施できていない学校もあるが、小学校やこども園に出向き、ごみの分別等の環境学習を実施している。

周知方法については、ユーチューブを活用し、とよなか環境TVにおいて動画配信での周知を行っている。また、ごみ分別アプリ「さんあ〜る」というアプリをインストールすると、収集日をカレンダー形式で確認できるほか、収集日をアラームでお知らせする機能が利用できる。そのアプリなどを活用しながら情報発信を行っている。

○委員

集合住宅に住んでいるが、本やカタログなどが混入した可燃ごみが出されている。土曜日に買取市を実施しているとのことだが、買取市の開催はどのように周知しているのか。

○事務局

買取市の開催については、広報誌やホームページで周知している。新型コロナウイルスの影響により令和2年4月から7月は開催を中止していたが、8月から再開している。9月以降も実施予定である。

○委員

8月から買取市を再開するという事は、どのように周知しているのか。

○事務局

市のホームページにおいて、周知している。

○委員

市のホームページは、あまり閲覧しないと思われる。

7ページに掲載している「飲食店向け食品ロス削減ガイドブック」について、個人向けまたは家庭向けの冊子やお知らせはないのか。

○事務局

家庭向けの冊子として、「とよなか食品ロス・ゼロハンドブック」Vol. 1とVol. 2を発行している。Vol. 3については、来年度に発行予定となっている。

また、市内こども園等の年長を対象に、絵本「きょうのきゅうしょくな～にかな」を発行し、こども園等の環境学習時に配布している。

各冊子については、地域イベントで実施しているフードドライブにおいて食品を提供された方に配布しているほか、市のホームページにおいて掲載している。

○委員

以前、くうかん鳥（図書券付きあき缶回収）という機械で、缶を集めていたと思うが、今はどうなっているのか。

○事務局

防犯上やメンテナンスの理由から、今は実施していない。

○委員

新型コロナウイルスの影響については、今年のゴールデンウィークや6月までテレワークをしている家庭が多く、5月くらいまではコロナの影響があるとみていいと思う。

○会長

昨年度のごみ量の要因分析について、新型コロナウイルスの影響は少なかったと思う。

○委員

市ホームページや広報とよなか、とよなか環境TVは、ごみのことに関心のある方は見るかもしれないが、そうでない人がごみを分別しないと減量目標の達成は難しいと思うので、情報発信する方法を工夫していただきたい。

学校から配布されるプリントであれば、保護者はおおむね見るので、そういうところにごみに関する情報が記載していれば、より多くの人が目にすると思う。

7月から有料化になったレジ袋の周知については、わかりやすい周知であったことから、周知方法に

については、もっと考えていただきたいと思う。

○会 長

市のホームページでの周知については、消極的な周知だと思う。

○委 員

事業者の取りまとめをしているので、その立場から発言させていただく。

事業系ごみが減っている要因について、平成30年度の地震や台風時により排出したごみが多かったこともあり、その反動で翌年度は減っているということはあったと思う。

事業者がごみを処理するにあたり、ごみ処理費を負担している。ごみの量がコストに直結するところがあり、さらに来年4月から負担金が増額になる。そのことが事業者にとっては負担になる一方、良い意味での足かせになってごみの量が減少すると思う。昨年は消費税が上がり、また、今年新型コロナウイルスの影響で4月以降6月まで大きなダメージを受けている。さらに、ごみの負担金が増額となると事業者にとっては泣き面に蜂となる。事業系ごみを減らすにあたり、何かインセンティブがあれば良いと思う。

また、先ほど出てきた缶の回収の機械の話について、家庭ごみを通常に処理する以外にゲーム感覚的なインセンティブがあれば良いと思う。

私は、豊中エコショップ協議会の副会長をしているが、エコショップに認定されるとPRする機会が増え、来店をしていただくひとつのきっかけになり、お店にとってエコに取り組むメリットになっている。同じことが家庭ではできないかもしれないが、インセンティブによる動機づけのヒントになると思う。

○会 長

諮問の文書で「廃棄物処理は住民生活を維持し、経済を支える必要不可欠な社会のインフラであり」とあるが、公共的な立場から事業者に対し、景気の良い時に細かく要請するのは当然であるとしても、産業・事業が成り立たなくなるような追い込みはしてはいけないと思う。費用的な面での協力や配慮は必要だと思う。事業系ごみ減少の要因に負担金が上がっていることや消費税が上がっていることは、記載できないので、事業系ごみの要因分析はそのままが良いと思う。

ペットボトルでもきれいな状態で排出すれば資源だが、汚れているとごみになる。ゲーム的なことでいうと、ペットボトルの中に精製水を入れ、その水を出して電気伝導率を測ることにより、ペットボトルの汚れをチェックするゲームなどをイベント等で実施すれば面白いと思う。

○委 員

ハッピーごみ減量プランが市民にとってどのようなインセンティブがあるのかわかりにくいので、いくら税金が減るなどプラスα的な要素があればわかりやすく、ごみの減量にやりがいを感じると思う。

8ページの家庭ごみの組成割合を見たところ、生ごみや食品ロス関係が大部分を占めている。プラスチックやペットボトルは重量が軽いので、減らしてもインパクトがないと思われる。

食品ロスについて、近所の食品スーパーではフードドライブを実施している。これまでは、1日や2日しか実施していないので、実施のタイミングに買い物に行けなかった場合は、食品を提供できなかったが、今は継続的に実施されているので、寄り道がてらに食品を提供できるのは、ありがたいと感じている。

最近コンポストを始めたことにより、生ごみの重さは半分以下になっている。生ごみをいかに排出しないかということの取組みを広げていくことが、家庭ごみの削減には一番近道であると個人的に感じている。他県では、小学校において「コンポストに取り組みましょう」という授業があるので、そういう事例も参考になると思う。また、夏休みの自由研究などでトマトを育てるなどの家庭菜園において、育

てたあとのプラスチック容器は捨てられてしまうので、コンポストとして利用して堆肥を作り、それを学校に持ち寄って植物を育てるなどの楽しい仕組みを作り、ものを捨てないことを子どもたちに学んでもらいたいと感じた。

○会 長

学校に対する要望がいくつかあり、学校現場も忙しいが、社会の中心的なところだと思うので、我々もその意識を持ちたいと思う。

○委 員

令和元年度の取組みについて、食品スーパーなどのお店でその場に捨てられている食品トレーは、リサイクルされていないと思われる。事業ごみとして回収され、焼却処分されていることを記載してはどうか。

○委 員

食品トレーは何回でもリサイクルができるとお店の方に伺った。

○会 長

食品スーパーで購入した食材をビニール袋などに入れ直し、食品トレーを食品スーパーのごみ箱に捨てて帰る「くるりポイ」は、関東では衛生上よくないとされている。

食品トレーは、再び食品トレーにリサイクルできる。大手食品スーパーが食品トレーを回収しているが、回収コストや夾雑物の問題などにより、今後も続けるかどうか苦慮していることを聞いている。

材質的に食品トレーは、ペットボトルの次にリサイクルできる素材なので、ペットボトルや食品トレーについては、今後、ポテトチップスの袋などのプラスチックとは別のものとして扱われると思う。

○委 員

食品トレーの話について、食品トレーを減らそうという意思を食品スーパーに伝えるのは良いと思う。汚れたままの食品トレーを食品スーパーに残していくと、その食品トレーはリサイクルには回らないということを伝えたいと思う。

○会 長

その他、意見等はあるか。意見等がないようであれば、事務局は審議した内容を踏まえて修正いただきたい。

○事務局

ハッピーごみ減量プラン事業等報告書について、修正したものを渡邊会長に確認していただき、今月中に発行したいと考えている。

案件2.「その他」について

○会 長

その他、事務局から報告はあるか。

○事務局

10月は食品ロス削減月間、10月30日は食品ロス削減の日となっている。食品ロスの取組みとして、10月30日（金）の11時30分から13時において、オフィスフードドライブを本庁第二庁舎で実施する。ご家庭に余っている食品があれば、提供いただきたい。

○会 長

さまざまな意見をいただき感謝する。これをもち本日の審議会は閉会とする。本日は、議事進行に協力いただき感謝する。

○事務局

次回の審議会は、1月頃に開催を予定している。日程については、改めて連絡させていただく。

12. 閉会